

～京鹿の子絞の伝統技法と先進の融合～

3Dプリンターを使った京鹿の子絞「デジタル3D絞帯」
2016年3月19日～21日 京鹿の子絞工芸展で展示発表

京都美京ではこのたび「デジタル3D絞帯」を発表します。この製品は京鹿の子絞の技法のひとつである「板締め絞染」を用いたものですが、板締めの道具（型）をコンピューターの3Dソフトでデザインし、3Dプリンターで出力して使用するものです。

先日開催された東京インターナショナルギフトショーでデジタル3D絞ストールを発表し、京都商工会議所主催の京都凱旋展にも出展しました。3D技術を用いた京鹿の子絞を行ったのは、京都美京の伝統工芸士、松岡輝一が初めてで、今のところ一人だけです。（当社はパリで開催されたメゾン・エ・オブジェ2016にも出展しております。）

「デジタル3D絞帯」は平成28年3月19日～21日、みやこめっせで開催される京鹿の子絞工芸展で展示され、今後デジタル3D絞ストールと合わせて小売店等に展開していく予定です。



立体感のあるやわらかい表情が特徴的なデジタル3D絞



●商品の特徴●

3Dプリンターで作り出した型を用いて、京鹿の子絞の伝統技法である板締め絞を施し帯にしました。板締め絞は平面的に色を染め分ける技法ですが、手仕事ではできない3Dならではの複雑な型を用いることによって、柔らかな立体感のある新しい風合いの京鹿の子絞が生まれました。

※デジタル3D絞は
商標登録出願中です



◆京鹿の子絞とは◆

「鹿の子絞」は絞り染めの一種で、総絞りにした模様が小鹿の背のまだらに似ていることからその名で呼ばれています。鹿の子絞の中でも京都で生産される絹の布に鹿の子を施したものは「京鹿の子絞」と呼ばれ、昭和51年に伝統工芸品に指定されました。

◆板締め絞染とは◆

「板締め絞染」は生地を畳んで板と板の間にはさんで染液につけるので、板にはさまれた部分が染まらずに残ります。生地の畳み方やはさみ方を変えて何度か染めると、より複雑な柄ができあがります。

(株)京都美京

〒604-8863 京都市中京区壬生中川町2-3
tel. 075-812-7777 fax.

075-841-8322

E-mail: k.bikyo@jeans.ocn.ne.jp

担当：松岡輝一 携帯 090-3707-2207